

2023年6月27日

ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会

ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校
校長 浅賀寿美

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価委員会は、2022年度（令和4年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2023年6月27日（火） 13：00 ～ 15：30
2. 場 所：ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校（オンライン）
3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大	(株式会社 sline 取締役) (日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長)
宮腰 大司	(有限会社HAIR GUEST 代表取締役)
東 千晶	(株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
杉原 昭二	(学校法人ミスパリ学園理事、評議員)
須賀谷 映子	(NPO法人スパ・ウェルネス協会 教育委員長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
越川 治枝	(株式会社シェイプアップハウス 教育部 部長)

事務局

浅賀 寿美	(ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 校長)
榎本 紋子	(ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 副校長)
勝野 美佐	(ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 教育課 主任)

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

①学生アンケートにおける改善点

【現状】

大宮校では、在校生に対し、年に2回（前期・後期）授業アンケートを実施。アンケート分析によって、授業内容や教員指導等について学生の満足度を図り、これを基に課題の掘り起こし及び改善に務めている。

2022年度におけるアンケートの実施方法・分析結果は以下の通り。

〔実施方法〕 全在校生対象。無記名式。10項目5段階評価及び自由記載のコメントを求める。

〔実施時期〕 前期：2022年7月21日、後期：2023年3月15日

〔分析結果〕 年間を通して両学科とも、ほぼすべての項目で90%を超える満足度となった。このことから、本校の教育活動について、学生より一定の理解と満足が得られていると評価する。学生の自由記載コメントでは、特に前期で大小様々な要望が寄せられた。これら全ての要望に対して教職員会議で改善策を協議し、後期期間中した実施ことにより、後期アンケートでは前期に挙げた要望は無くなった。このように、寄せられた要望を一つ一つ丁寧に対応することにより、学生がより心地よく学べる学習環境を今後も作っていききたい。

一方、約半数の学生が自由記載欄に「特になし」と回答している。このことは、要望がないというよりも、無記名でも要望を書けない学生がいるという可能性があることを考慮しなければならないと考える。アンケートを実施する目的を学生に正確に伝えるとともに、アンケートの設問内容や取得の時期などを再考し、より有益性の高いアンケートを実施することが今後の課題と捉えている。

②自己評価点の理由

【現状】

2022年度自己評価は、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたことに伴い、授業体制をコロナ禍前の対面授業中心の状態に戻すことが出来たことや、トータルビューティ学科の進級率を回復できたこと等から、概ね適切な学校運営が出来たと評価している。特に、美容学科定員数を大幅に超える入学希望者を集め、本校の美容学科入学定員数を充足し且つ姉妹校への紹介も出来たことは、学園全体への貢献度とともに、地域社会に本校の教育活動が浸透・評価された結果と捉え、高く評価している。

ただし、授業体制を対面授業中心に戻したことや学生数が増えたことによって、新たな課題も見つかった。今回の委員会では、これらの課題について学校関係者評価委員にご説明し、改善アドバイス等をいただいた。

(1) 学生数確保について

美容学科入学定員数の充足及びトータルビューティ学科の進級率回復によって、在籍学生数が昨年に比較し増加した。このことから昨年よりも評価点を上げている。

美容学科の入学希望者が増大した要因として、TikTokの導入によって在校生のリアルな日常を発信したことで、本校の教育理念や教育活動への理解が深まるとともに、生き生きとした在校生の姿に魅力を感じて、友人同士誘い合っって入学を決心する方が増えたことが挙げられる。

また、トータルビューティ学科進級率の回復については、昨年度の中途退学理由として多かった次の2点について、対策を強化したことが成果に繋がったと考えている。

1. 通学習慣が乏しい学生の退学…生活習慣のサポートを保護者様に依頼した

2. 入学前の実習未体験によるミスマッチ…入学決定前に必ず実習体験をしていただいた
今年度も引き続きこれらの成功例を継続するとともに、更なる学生数確保に繋がる施策を検討、実施していく。特に今後の主な課題として次の2点を挙げる。

1. トータルビューティ学科入学希望者の増加

2. 両学科の進級率向上

北関東からの入学希望者が多い本校では、トータルビューティ学科の主要科目であるエステティックの店舗が少なく、高校生が目指す職業としてエステティックがイメージしにくい地域的特色がある。この為、SNS等を駆使し、エステティックの魅力を広く発信することに注力する。更に、後述する学生支援策に力を入れることで、両学科の進級率向上を目指す。

(2) 学生・学習支援について

授業体制を対面授業中心に戻したことにより、各学校行事や資格試験等もほぼコロナ禍前と同様に開催することが出来た。対面授業に戻した目的は、学生のコミュニケーションスキルを上げ、集団の中での自主性や推進力を養ってほしい為である。この目的の具体的な施策としては、スポーツ大会や美容コンテスト、学園祭などで実行委員会を設置し、学生の自主性を育成する取り組みを行ったことや、各種資格試験対策として補習授業（自主練習補助）を実施し、やる気のある学生が自信をもって試験に臨めるような環境づくりを行ったことが挙げられる。

しかし、残念ながらこれらの取り組みは、教員が意図したような活発な活動にすることが出来なかった。対面でのコミュニケーションに不安感を持つ学生が多いことや、勉強や練習が元々苦手な学生程補習から逃げてしまい、これらへの対策が不十分だったことが原因として考えられる。このことは「出来ない・分からない→楽しくない→辞めたい」という心情変化を起こしかねず、早急な対策を行う必要があると考える。今後更なる改善が求められることから、評価点は昨年より下げている。

(3) 学習成果について

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中だったが、2022年度も本校の就職希望者は全員就職内定をいただくことができた。このことは、本校のキャリア教育が多く企業様から高い評価をいただいている証左だと考え、評価点を良好とした。

但し、コロナ禍を経て企業からの要望も大きく変化していると感じる。企業に求められる人材像の把握に努め、それに対応する人材を育成するべく、教育内容のブラッシュアップを継続して行っていく必要があると考えている。

今後の課題として、せっかく頂いた内定を辞退したり、就職後すぐ辞めてしまったりする学生が増加傾向にあることが挙げられる。企業研究不足が主な要因と考えられる為、就職活動中のキャリア教育を強化していきたい。

(4) 設備・システムについて

学生数が増加したことにより、設備や備品等を増設し、また教員が学生指導に注力できるよう、業務システムの効率化を図った。これらの取り組みは一定の効果があり、学生の授業アンケートなどでも高い満足度となっている。

しかし、2023年度は更に学生数が増加したことで、設備・システム面の更なる強化が必要と考えている。特に美容学科学生数の伸び率が顕著な為、美容学科の教室設備の増設、優秀な教員の安定確保等が急務となっている。学生の不利益にならないよう、早急に対応していきたい。

③重点的に取り組む施策

学生アンケートや自己評価の結果から、2023年度の重点的な施策として次の3点を設定する。

1. エステティックの普及促進活動に力を入れる

エステティックはミスパリア学園の主軸をなす教育科目であり、学園創設にはエステティック産業の健全な普及を目指すという目的があった。この度、この原点に立ち返り、エステティックの普及活動に注力することによって、エステティックの魅力を広め、トータルビューティ学科の定員充足に繋げていきたい。更に延いては、エステティック産業の発展促進に寄与する存在となることを目指す。

2. 進級率・卒業率の更なる向上

入学した学校を中退してしまうことは、一部の例外を除き、学生本人はもちろん、保護者様と一緒に学んだクラスメイトも不幸にする行為であると考えている。この要因の多くは、学生と学校並びに教職員との相互理解不足によるものである為、入学前の学校説明機会の増設及び入学後の学生面談機会を密に設けることで、中退者防止に繋げていきたい。

3. 学生・教職員ともに意見が言いやすい環境を作る

現代社会では多様性が重視され、マイノリティを大切に作る社会になってきている。本校内でも誰でも声を発することが出来る風潮を育て、学生・教職員の隔てなくより良い教育環境づくりを行っていきたい。

これら3つを重要な施策とし、より良い学校運営を目指していく。

委員より

・授業アンケートのコメント欄で「特になし」と記載する学生の多さに驚いた。全体的な学生満足度は高いが、サイレントマジョリティーの意見の吸い上げが出来ていないのではないかと懸念する。自分の悩みや不安を明確な文章として表すことが苦手な学生が多い現れかもしれない。もしこれが本当であれば、放置しておくことは非常に危険であるため、早急に対応してほしい。学生がコメントしやすいようにアンケートのとり方を工夫する、文章化できない学生のために、面談が必要な場合のサインを決めておくなどすると良い。

・お客様のニーズは多様化してきている。求められるサービスについても多岐に渡り、個々の要望を汲み取る力が必要となってきている。サロンワークの授業やインターンシップを活用し、さまざまな場面での対応力や学生の考える力を養う授業を工夫していただきたい。

・現場では自分なりの目標や信念を持っているスタッフの方が活躍する。知識や技術力を高めるのみならず、学生に将来の目標や自分の信念を持たせる教育を行っていただきたい。

5. 全体総括

2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響下にあったが、学生満足度を下げることなく、入学者数の増加や全希望者の就職内定を獲得したことは、評価委員からも一定の評価をいただいた。他方で、

脱コロナ禍を見据えた準備を行ってきたが、非接触を求められた3年間に及ぼした、生活環境や学生の心身に与えた影響は大きく、学生の生活習慣や考え方も変化してきていると感じる。その為、ただ単にコロナ禍以前の教育環境・教育水準に戻すのではなく、今の学生の状況や心境に寄り添った新しい教育環境を模索する必要があると考える。その為にも、学生・教職員はもちろん、関連企業や業界団体からのご意見等も幅広く収集し、今後の学校運営に役立てていきたい。

今回、評価委員会の方々から頂戴した意見を真摯に受け止め、今まで以上に魅力的な授業を行い、入学してきた学生を社会で活躍できる人材に育てるという使命感を教職員全員が持ち、美のプロフェッショナル育成により一層努力していきたい。

以上